

教育委員会 12月定例会会議録

日時 令和7年12月15日（月） 午後2時30分から午後2時59分まで

場所 総合教育プラザ22会議室

出席者

（教育委員）

教育長	吉川 真由美	教育長職務代理者	奈良 知彦
委員	畠山 正文	委員	北爪 麻衣子

（事務局）

教育次長	高松 秀光	指導担当次長	酒井 暁彦
総務課長	高橋 良祐	教育施設課長	木村 一弥
文化財保護課長	神宮 聡	学務管理課長	後藤 弘史
学校教育課長	小池 英雄	前橋高等学校事務長	岩瀬 孝弘
前橋高等学校長	高野 裕史	生涯学習課長	宇次 明
教育支援課長	安藤 尚	図書館長	齋藤 明子

【教育長】

これより前橋市教育委員会 1 2 月定例会を開会いたします。

【教育長】

直ちに 本日の会議を開きます。

なお、本日、渡辺委員は欠席となりますのでご承知おき願います。

【教育長】

1 1 月定例会の会議録については、既に配付済みであります。記載事項に異議等ありませんか。

(異議なし)

【教育長】

異議のないものと認め、承認いたします。

【教育長】

議事は、議事日程第 1 号のとおり進めます。

日程第一。会期の決定ですが、本会議の会期は、本日一日といたします。

【教育長】

日程第二。会議録署名委員の指名ですが、本日の署名委員に北爪委員と奈良委員を指名いたしますので、よろしくお願いいたします。

【教育長】

日程第三。教育長提出の諸報告について報告いたします。

総括的報告

【教育長】

2 点報告をさせていただきます。まず 1 点目は、教育福祉常任委員会が 1 1 月 1 7 日月曜日に開催され、記載の 8 件について報告いたしました。

2 点目として、現在開会中の第 4 回定例市議会が 1 1 月 2 7 日に開会し、1 2 月 4 日、5 日、8 日の 3 日間にわたって総括質問が行われました。質問項目については、配付させていただいた一覧のとおりです。教育委員会については、適正規模適正配置についての市教委の考え方の質問がありました。また、学校施設利用のあり方、不登校の現状と今後の取り組み、新図書館の今後の予定、公民館改修の考え方について、加えて、ビブリオバトルを今後どのように広げていくかなどのご質問がありました。

その他に嬉しいニュースが週末に飛び込んできました。第 3 3 回全国中学校駅伝大会で、男子では木瀬中学校が優勝、女子でも荒砥中学校 2 3 位という、前橋の学校が 2 つ全国大会に進むことができ大変素晴らしいと思います。心からお祝い申し上げます。

インフルエンザの影響もだんだん少なくなってきて、学校の方も残すところあと 1 週間ちよっととなりましたけれども、順調にいろいろな行事も進んでいるところです。

以上でございます。

【教育長】

以上の報告について、質疑等ありますか。

【教育長】

なければ、以上で質疑を終わります。

【教育長】

日程第四。その他について報告事項があります。説明をお願いいたします。

その他 1 行事について

【総務課長】

教育委員会の1月定例会でございますが、1月15日木曜日午後2時30分から、市役所11階北会議室において開催予定です。（ほか、資料の主だった予定を紹介）

教育委員会の2月定例会につきましては、2月13日金曜日午後2時から、市役所11階南会議室で開催予定です。（ほか、資料の主だった予定を紹介）

その他 2 令和7年度「まえばし教育の日」事業実施結果について

【学校教育課長】

資料3ページをご覧ください。

11月1日のまえばし教育の日を中心とする、10月16日から11月15日までの期間に、この趣旨に沿った事業が、まえばし教育の日事業として実施されました。

各課・関連団体主催で17事業が、また、各学校・園の主催で134事業が実施され、合わせて約100、000人が事業に参加しました。事業の詳細につきましては、記載のとおりでございます。

今年度も、まえばし教育の日について広く周知を図るため、事業一覧表の作成、シンボルマークの活用、広報まえばしや市ホームページへの掲載などの広報活動を行いました。来年度も、教育委員会関係課のみならず、市長部局や各関係団体とも連携を図りながら事業を進めてまいりたいと考えております。

次に、まえばし教育の日事業の中心的なイベントとして、11月15日、16日に開催されましたまえばし学校フェスタ2025についてご報告いたします。

資料4ページをご覧ください。

今年度の学校フェスタは、ステージ発表、展示発表、中学生ボランティアも合わせて、合計530名のこどもたちが参加いたしました。

インフルエンザの影響で急遽参加できなくなったり、出場者が制限されたりした学校もありましたが、合同開催している前橋市図工美術作品展と合わせ、来場者数は、2日間でのべ8,109名でした。

資料5ページにありますように、今年度も市内6ロータリークラブとの共催ということで、前日の準備から、当日の運営、そして、最後の撤収作業までご協力いただきました。また、消耗品や参加賞等を提供いただくなど、各ロータリークラブのみなさんには、多大なるご協力をいただきました。

各学校からの感想を見ますと、こどもたちが取り組んでいる文化活動の成果について、

よい発表の場となるとともに、本市の学校文化を広く市民のみなさんに知っていただく機会となったことが伺えます。

来年度につきましても、今年度の成果を生かしながら、事業の一層の充実を図ってまいりたいと考えております。

説明は以上です。

その他 3 第 2 回前橋市社会教育アドバイザー会議の開催結果について

【生涯学習課長】

資料 6 ページをご覧ください。

開催日時、場所、出席者については記載のとおりです。

次に、社会教育アドバイザー会議の開催目的、趣旨といたしましては、本市社会教育について今日的・全国的課題と地域的課題の両面から検討し、社会教育にかかる目標設定の指針となる中・長期的なビジョン、社会教育ビジョンをまとめるため、有識者から助言を頂くとともに、意見交換を行うこと、となります。

また、第 2 回会議の主な議題につきましては、記載の（１）から（３）のとおりです。

結果概要ですが、（１）、（２）については、成果物の作成や、今後のアドバイザー会議の開催日程などについて承認されました。

また、ビジョンの作成の内容やテーマ等については、（３）の委員の意見交換の中で様々な議論がなされ、牧野委員長と今後の進め方について個別に打ち合わせるとなりました。

その中から、主な意見をご紹介します。

社会教育のビジョンなのか、前橋市のビジョンなのかが曖昧になると、議論がぶれてしまうので、教育や社会教育に引き寄せて議論できるようにする必要があると思います。個人的には、ウェルビーイングという言葉は今後 SDGs の次に出てくるキーワードになると思います。それを前橋らしく、分かりやすく、幸せ、などの言葉に置き換えて、大目標に入れると良いと思います。

前橋は何をしようとしているのか、ということも含めて、社会教育のビジョンを作ることなので、単に目標を決めて、それを達成すればビジョンになるというものではないと思います。そのあたりを皆さんと議論して、はっきりさせた方がいいと思います。

無理に、学び、や、育てる、という言葉を押し込むのではなく、与えられたものに答えるだけではなく、一人ひとりが自分の幸せのために何ができるのかを考える。そのビジョンを示し、そのためにこんな方法もある、行政はこういうことができる、市民はこういうことをやろう、子どもたちはこういうことをやろう、という形で具体化できるといいと思います。

ビジョンの核は人が幸せに生きるための社会をどうつくるかであり、そのために学びがあるという構造が望ましいと感じます。

以上でございます。

その他 4 令和 7 年度第 2 回前橋市公民館運営審議会の開催結果について

【生涯学習課長】

資料 7 ページをご覧ください。

開催日時、場所、出席者及び議題につきましては記載のとおりでございます。また、主な議題につきましては、記載の（１）（２）のとおりです。

結果概要ですが、中央公民館で事前に各公民館に調査しました、各公民館におけるコミ

ユニティ・スクール及び地域学校協働活動の現状の結果を事務局より報告し、その資料及び今までの審議会や視察を踏まえた上で、各委員が学校教育、社会教育、家庭教育、学識経験者の立場から諮問である地域学校協働活動と公民館に対して意見を求め、議論がなされました。今年度の審議会は、あと1回開催予定であり、次回は3月開催を予定しております。市の諮問に対する答申書は、審議会を経て市へ提出される予定です。

委員からいただいたご意見の中から主なものをご紹介します。

学校は学校が主体となって学校づくりをしているが、地域づくりはどこが主体で行うのかとなると公民館だと思う。公民館は社会教育施設なので、公民館が持っている情報や現在行っている活動で学校と地域を結び付けていただければありがたい。

地区公民館は市民サービスセンター業務と公民館業務を兼務しているため社会教育活動に従事する職員の人材不足が懸念される。地域づくりなどの専門性をもった職員を増やさないと地域や学校との連携が図れなくなり、地域のコミュニティそのもののレベルが下がると思う。

学校の先生から児童・生徒たちに公民館はこういう活動をしているところなどの情報提供があれば、公民館に対して警戒心がなくなるし、より身近な存在になると思う。

今後のコミュニティ・スクールや地域学校協働活動を考えたら、学校も公民館も組織をしっかりと整備する必要がある、具体的に進んでいくのであれば、担当者同士で地域課題解決に向けた研修を実施し、中身をもっと話し合ってお互い共通認識を持つ必要がある。

以上でございます。

【教育長】

総務課からの行事予定で、次回の定例会についてですが、1月15日（木）午後2時30分でよろしいでしょうか。

（異議なし）

【教育長】

では、1月定例会については1月15日（木）午後2時30分からと決定いたします。

また、2月定例会については2月13日（金）午後2時から予定することで、よろしいでしょうか。

（異議なし）

【教育長】

では、2月定例会については、2月13日（金）午後2時からで、お願いいたします。ほかに、ただ今の報告について質疑等ありますか。

【教育長】

2月19日、20日と市立前橋高校の入学者選抜試験があります。国際理解教育などで様々な授業をされ、台湾に修学旅行も行き、そんなことも高い倍率につながっているのかと思います。台湾の修学旅行についてどんな様子だったか教えていただけますか。

【前橋高等学校校長】

修学旅行ですが、11月25日から28日まで、3泊4日の日程で台湾に行ってきました。そもそもなぜ台湾なのかというところですが、2年前に私が校長で着任した時に、すぐに台湾に決めました。その背景には、前橋市が台湾と深いつながりがあるということと、海外研修の中止などコロナによりグローバル教育が非常に停滞していたというのがあります。生徒には全員グローバル教育を肌で感じてもらいたいと思って計画をし、今回実現になりました。生徒は223名、教員が13名の旅行団で行ってまいりました。初日は移動だけでしたが、2日目以降は班別の市内行動でした。当初はブラザーアンドシスターという制度で、各班に現地大学生がついて現地ガイドをしてくれる制度を利用しようと思っていたのですが、実は生徒の方から自分たちできちんと下調べをすることができますと申し出がありましたので、メトロの1日パスカードを渡して、生徒が自分たちで計画的に色々なところに行って、台湾を肌で感じてきました。これにはちょっと驚きましたが、外国を怖がるかと思ったら意外とへっちゃらで、色々なところに生徒がいて、それぞれ楽しんでいました。3日目がメインでしたが、台北市立百齡高級中学と学校交流を実施しました。芸や音楽を披露し合ったり、ボクシング体験とか、色々なものを作ったりして、違う国の人たちと実際に接するという機会を堪能していました。その日の午後は、観光地の十分で天燈上げをして、夜の九份の綺麗な街並みを堪能しました。最終日は龍山寺に行って、帰路につくという行程でした。

実際に行って分かったことですが、グローバル教育というのは、国内にいてグローバル教育を推進しようとか、いろいろ外国語を学びましょうとやってはいますが、真のグローバル教育はやっぱり外国に直接行って、その外国の色々なことをこどもたちが肌で感じるのだということをつくづく感じました。現地で、不自由なこともたくさんありましたが、そういった様々な体験を通して、多様性とか日本の素晴らしさを再認識した生徒もたくさんいます。そういったことを直に学ぶことができ、本当に良かったと思っています。

事後のアンケートを見ても、概ね満足していました。ただ、ご飯がちょっと合わないというのがかなり多かったところです。生徒の意見をいくつか紹介させていただきます。

トイレや食事にとっても文化の違いを感じた。自分にとって初めての文化が沢山あって、とてもいい経験ができてよかった。ご飯が美味しくないのも楽しさでした。台湾の歴史や食文化など、実際に行って自分自身で体験したことによって、自分なりに台湾について理解できた気がする。日本とは異なることが多く、大変なこともあったけれど、文化を尊重し過ごすことができました。海外はちょっと不安と身構えた自分が、また絶対に行きたいと思えるくらい台湾に親しみと愛着を持つきっかけになった体験でした。行く前はただのイベントぐらいに考えていた修学旅行が、行った後は人とのつながり、自分の変化を強く意識するものになりました。

いいことばかり紹介させていただきましたが、やはり体験を通じて色々感じたのかと思っています。最後に、実施するにあたり、教育長さんをはじめ、市の教育委員会の皆様にたくさんのご協力をいただき、この場をかりて感謝を申し上げます。

【教育長】

ありがとうございました。

価値観で同じところもあれば違うところもあるし、生活様式も同じところがあれば違うところもある。違いと共通点を肌で感じてきたんだろうなと思います。うまくいかなかったこともあったと思います。ヒヤリとしたこともあったかもしれないです。先生もヒヤリ

と思うんですけれども、そういうことも子どもと一緒に、色々なトラブルを乗り越えるというのもとても大事なのかと思います。日本にいては気づけないことにたくさん気づいてくれたのは良かったし、行って帰ってきてああ楽しかったねで終わりではなくて、台湾でできた縁を次の世代にも繋いでいってほしいと思います。

もう1点ですが、公民館運営審議会の主な意見で、児童生徒から見た公民館という意見がありますが、具体的にどのように受け止められているということでしょうか。

【生涯学習課長】

公民館審議会委員で一番若い大学生の委員からいただいた意見ですが、自分が小中学生の時に公民館に対して感じたところがあったので、情報提供が学校側にあればもっと身近に公民館が利用できたかもしれないと、自分の経験からの感想を話してくれたものです。

【教育長】

情報共有大事ですね。

【畠山委員】

前橋学校フェスタの展示発表に台湾との交流展示がありますが、台湾の中学校の生徒たちの絵画をこちらに展示して、箱田中と明桜中の絵画を台湾の方で展示してもらおうという交流がなされたということでしょうか。言葉にしづらいと思いますが、どんなふうに違ったかとか、どんな印象だったかを聞かせていただけますか。

【学務管理課長】

違いというものではありませんが、台湾から届いた絵画に日本のアニメを題材にしているものもあり、それを見た中学生が、やはりアニメは日本の文化なんだということを改めて強く感じたようでした。

【畠山委員】

中国も台湾も他の国もですが、かなり日本のアニメに関心を持っていますので、日本に展示するとなれば、やっぱりアニメだろうという感じですね。

【教育長】

台湾の中学校と中学生同士が交流するときに、ちょっと会話が途切れた後、何から始めるかなっていうと、やっぱり好きなキャラクターは何かという会話でまた盛り上がったりするので、ここは日本文化の、自分たちの誇れるところなんだなっていうのを感じました。

【畠山委員】

ちなみに箱田中と、明桜中の作品はどのような感じでしょうか。

【学務管理課長】

まだ感想は届いていないので具体的なことはわかりませんが、昨年度を思い出しますと、日本の子どもたちが台湾のことを意識して描いているところもありますので、日本の生徒たちが台湾の文化を学ぼうとしてくれていることを感じる、という感想があったのを覚えています。

【畠山委員】

先程、校長先生からお話がありましたが、直接外国に行く、肌身で感じるその感覚は本当に全然違うとは思いますが、こうして国内にいたながらも、台湾の人たちはどんなふうに思うかなとか、想像しながら絵を描くというのも、それもまた豊かな国際交流だと思います。

【教育長】

ありがとうございます。4ページにとっておきの一枚という展示の案内がありますが、市役所の1階でも展示されました。来庁者が熱心にご覧になっている様子が見受けられました。こういうのは各公民館などにも回ってほしいと思いました。

【教育長】

以上をもちまして教育委員会12月定例会を閉会いたします。

(午後2時59分)